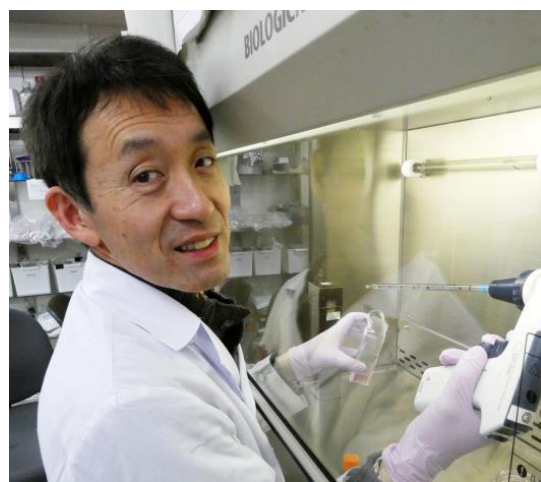


2021年度
新潟大学歯学部同窓会学術講演会のご案内

**異分野連携がもたらす口腔粘膜ティッシュエンジニアリング
／再生医療の発展**

新潟大学大学院医歯学総合研究科 生体組織再生工学分野
泉 健次 先生

1988年3月 新潟大学歯学部卒業(18期生)
1992年3月 新潟大学大学院歯学研究科修了(歯学博士)
1992年7月 新潟大学歯学部助手(口腔外科学第1講座)
1997年5月 文部科学省若手在外研究員として
ミシガン大学歯学部に留学
2002年7月 ミシガン大学歯学部に再留学
2005年3月 ミシガン大学歯学部
Research Scientist/Clinical Assistant Professor
2009年1月 新潟大学大学院医歯学総合研究科
口腔解剖学分野准教授
2013年6月 新潟大学大学院医歯学総合研究科
生体組織再生工学分野教授



日 時 : 2021年4月24日(土) 19:00~20:30

会 場 : Zoomによるオンライン開催(ライブ配信)

同窓会総会(オンライン)後に開始となります

参加費 : 無料

申し込み方法

※以下の必要事項を新潟大学歯学部同窓会学術部(gakujutsu@dent.niigata-u.ac.jp)にメールでご連絡下さい。
タイトルは「2021年度同窓会学術講演会 申込」として下さい。申込締め切りは2021年4月12日(月)です。

必要事項 氏名:

卒業年度(何期):

メールアドレス:

※携帯電話から送信する場合は必ずドメイン(@dent.niigata-u.ac.jp)指定受信の設定をして下さい。

※メール受け取り後、受付完了のメールを送信いたします。

※申込メール送信後、5日経過後も返信がない場合、お手数ですが再度メールを送信していただくが、同窓会事務局へ(Tel:025-229-4166)ご連絡下さい。

ヒトiPS細胞を用いた様々な疾患治療への展開には目覚ましいものがあり、大阪大の臨床試験(治験)では、昨年iPS細胞から作成した心筋シートを重症心不全患者に世界で初めて移植したという発表がありました。また、加齢黄斑変性の治療も臨床応用の段階に入りました。すでに皮膚、軟骨など商品化された再生医療製品もあります。さらにティッシュエンジニアリングに関しては様々なアプローチや、新旧に開発された生体材料を用いた組織立体構築の研究が展開されていて、臓器創生に向けた研究開発も始まっています。

細胞による疾患の治療を目指して、再生医療はiPS細胞や間葉系幹細胞に代表される幹細胞研究と、細胞から組織を作成するティッシュエンジニアリング研究がその両輪となって日々進歩してきています。今後、再生医療を実施する医学生物学研究分野の発展を加速するものとして、細胞培養技術そのものの進歩や、移植用に使用される患者細胞の品質管理にAIを用いたコンピューターシミュレーションの導入もあげられます。

より生体内に近い細胞培養の方法として、従来のようなプラスチックの平面上の細胞培養ではなく、立体的な生体材料/足場材で細胞培養を行う三次元(3D)培養や2種類以上の細胞を同時に培養する共培養に注目が集まっています。そういった培養技術の進歩の有用性は認識されつつも、3D in vitroモデルの多くはまだ芽生え期にあり、医(歯)工連携などの学際的な研究による更なる技術革新が望めます。その点、演者が対象にしている口腔粘膜は比較的単純な組織構築を有していることが、技術革新のロールモデルとなる可能性を秘めています。

本講演では演者がこれまで20年以上携わってきた、ミシガン大学と新潟大学発の培養口腔粘膜作成プロトコルという基盤技術をベースに、医(歯)工連携をキーワードとして、顕微鏡画像解析による再生医療で利用できる細胞品質管理、3D in vitroモデルの非侵襲的評価法、そして、最近メディアにも取り上げられた、魚うろこコラーゲン製材についてお話ししようと思います。

※ 日本歯科医師会会員の先生方は、日本歯科医師会生涯研修事業の単位を取得できます。

単位登録は同窓会学術部で一括して行います。

※ オンライン講演会終了後にアンケートをお送りします。アンケートにお答えいただいた方のみ、日本歯科医師会生涯研修事業の単位登録を行います。

※ 詳細は講演会開催日が近づきましたら、メールにてご案内いたします。

お問い合わせ先：新潟大学歯学部同窓会学術部 gakujutsu@dent.niigata-u.ac.jp